

やまぐちっ子学力向上だより

第 1 2 2 号 R4.12.21

山口県教育庁義務教育課

山口県学力定着状況確認問題の調査結果について

10月17日を基準日として実施された、山口県学力定着状況確認問題の調査結果を公表しました。平均正答率と、調査結果から見られる課題は次の通りです。

◆小学校平均正答率

	国語	算数
第5学年	73.2%	53.8%
第6学年	63.8%	55.8%

◆中学校平均正答率

	国語	数学	英語
第1学年	62.2%	60.4%	
第2学年	68.9%	57.6%	53.7%

◆教科の調査結果から見られる課題

小学校	国語
	<ul style="list-style-type: none"> 筋の通った文章になるように、<u>文章全体の構成を考</u>えること。 文章に対する感想や意見を伝え合い、<u>自分の文章のよいところを見付ける</u>こと。 自分の立場や意図を明確にし、<u>メモを基に自分の考えをまとめる</u>こと。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 整数÷小数の計算をし、<u>あまりを正しく求める</u>こと。 複合型の<u>グラフから必要な情報を読み取り</u>、問題解決に生かすこと。 比較量と基準量を使って、<u>割合を求める式を立てる</u>こと。 台形の<u>面積の公式を導く</u>こと。 異種の二つの量の割合の<u>求め方を理解する</u>こと。

◆教科の調査結果から見られる課題

中学校	国語
	<ul style="list-style-type: none"> <u>四字熟語を理解</u>すること 文節同士の関係や修飾語・被修飾語を理解すること 読んで考えたことや、資料を基に<u>考えたことを表現</u>すること 聞き手の興味・関心などを考慮して、<u>話し方を工夫</u>すること
	<ul style="list-style-type: none"> 正の数と負の数の意味を、<u>実生活の場面に結び付けて理解</u>すること。 <u>平均を求める方法を式で表現</u>すること。 基準量と比較量を基に<u>割合を求める</u>こと。 事象と式の対応を的確に捉え、<u>文字式の成り立ちを説明</u>すること。 投影図から<u>図形の表面積を求める</u>こと。 ヒストグラムを使って、<u>理由を説明</u>すること。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 聞いて把握した内容について、<u>適切に応じる</u>こと。 文脈に合うように、内容を考えて、<u>基本的な文法事項を活用し英文を書く</u>こと。 社会的な話題に関する、まとまりのある英語を読んで話の要点を読み取ること。 日常的な話題に関するまとまりのある英語を読んで、把握した内容についての質問に対して、<u>適切に応じる</u>こと。

調査結果から、正答率が高い問題もありました。小学校国語では、「文章を読んで理解したことに基づき自分の考えをまとめる力」が向上していました。また、中学校数学では、「二元一次方程式の解の意味を理解する力」が向上していました。

県全体の詳細な結果については、義務教育課 Web ページに掲載を予定していますので、ご確認ください。（右 QR コード参照）



誤答を手がかりに、児童生徒の思いに寄り添った指導を心がけましょう。

今年度の山口県学力定着状況確認問題は、C B Tで実施しました。C B Tで行うよさは、児童生徒の反応を基に課題を分析し、課題を課題のままにしない手立てを講じることができることです。小学校6年生算数の[2] (4) を例に挙げて考えてみます。

2

(4) 帰宅後、ハンバーグを作ったしょうたさんは、みかんの果汁が40%ふくまれている800mLの飲み物も準備することにしました。この飲み物を4人で等しく分けると、1人分は200mLになります。



しょうたさんは、200mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめました。

【200mLの飲み物に含まれている果汁の割合について】

200mLは、800mLの $\frac{1}{4}$ の量です。

このとき、

上のアにあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、番号で答えましょう。

- 1 飲み物の量が $\frac{1}{4}$ になっても、果汁の割合は変わりません。
反応率 49.0%
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{4}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{4}$ になります。
反応率 43.2%
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{4}$ になると、果汁の割合は4倍になります。

【正答】 1

問題場面のような、みかんの果汁が40%ふくまれている800mLの飲み物を分けたとき、「味が変わる（薄くなる）」と捉える児童は少ないのではないのでしょうか。しかし、問題文のように「飲み物の量が4分の1になると、果汁の割合も4分の1になる」と回答した児童の割合は、43.2%でした。児童の意識は、生活場面と問題文を切り離して考え、別個のものであると捉えていると考えられます。この場合、授業では、生活場面と算数を関連付けて、量感や具体的な場面のイメージを捉えさせて、学びを身近なものにしていく働きかけを行うことが大切です。その積み重ねは、わかる喜びやできる楽しさを味わわせ、中学校の数学へもつながります。

このように、誤答を手がかりに児童生徒の思いに寄り添った指導を心がけましょう。

定着には時間がかかる。繰り返し取り組みましょう。

授業では解けた問題が、学期末テストや調査問題など、時間を置いて取り組ませると解けなくなっている、という経験はありませんか。これは、問題を解く力が定着していないことが考えられます。問題を解く力を定着させるためにはどうしたらよいのでしょうか。

スモールステップで継続的に問題に取り組むことが大切です。その際に、C B Tのよさを生かすことができます。

例えば、確認問題C B Tで間違えた問題について、いつでも・どこでも・何度でも取り組むことができます。また、確認問題C B Tで間違えた問題と関連のある「やまぐちっ子学習プリント」にも取り組むことができます。このことについて、【別紙1】「山口県学力定着状況確認問題結果の活用方法」で手順をお示ししていますので御確認ください。

このような機能を活用する中で児童生徒に応じた働きかけを行い、わかる喜び、できる楽しさを味わうことができるようにしましょう。